

# 交 通

## 1 交通事業の概要

京都市の交通事業は、市域を東西南北に貫く交通の大動脈である地下鉄と、市内にきめ細かに張り巡らせた市バス路線とのネットワークにより、安心・安全で市民の皆様の生活に欠くことのできない身近な公共交通機関として、また、京都を訪れる方々の便利な交通手段として多様な都市活動を支えるとともに、本市の重要政策である、ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」を牽引する公共交通機関として、重要な役割を担っています。

本市交通事業は、明治45年に市電（軌道事業）、昭和3年には市バス（自動車運送事業）の営業を開始し、昭和27年から地方公営企業法の適用を受け、市民の足として活躍してきました。

しかし、昭和30年代後半からのモータリゼーション等による急激な環境の変化により、市電のお客様が漸減し、財政状況が年々悪化したことから、交通事業再建計画を策定・推進する中で、昭和53年9月末をもって市電を全廃、路面交通を市バスに一元化するなど経営の再建に取り組みました。一方、本市交通の基幹となる輸送手段として、昭和56年5月に地下鉄（高速鉄道事業）烏丸線を北大路・京都間で開業させ、以降、順次路線を延伸し、平成9年10月に東西線を開業、平成20年1月の東西線二条・太秦天神川間の延伸により、今日の広域的な鉄道ネットワークを形成しました。

この間、お客様数の伸び悩みや巨額の地下鉄建設費の償還などにより極めて厳しい経営状況が続き、平成20年度決算において、市バス・地下鉄両事業ともに、資金不足比率が財政健全化法に定める経営健全化基準の20%を大きく上回り、経営健全化団体となったことから、同法に基づく経営健全化計画を市会の議決を得て策定し、以降、全庁挙げて増収増客に取り組むとともに、サービス向上、コスト削減等を着実に推進してきました。

市バス事業においては、自動車整備業務の委託化等のコスト削減に取り組んだほか、増車や増便による輸送力の増強を図るとともに、魅力あるバス待ち環境の創出に努めるなど、お客様サービスと利便性を向上させる取組を積極的に推進したことにより、平成24年度には経営健全化団体を脱却、平成26

年度には累積資金不足を解消し、一般会計からの任意補助金に頼らない自立経営を実現しました。

また、地下鉄事業では、全庁挙げた増客の取組や、毎週金曜日に終電を延長するコトキンライナー等の利便性向上、駅ナカビジネスの積極的な展開に取り組むとともに、駅職員業務の民間委託等のコスト削減を進めてきました。その結果、平成27年度には開業年度以来となる経常黒字を計上し、平成28年度には経営健全化計画の目標である地下鉄1日5万人増客を2年前倒しで達成し、平成29年度には計画より1年前倒しで経営健全化団体から脱却できる見通しです。

しかし、両事業ともに、今後は車両・設備の老朽化に伴う更新費用が大幅に増加する見込みであるほか、地下鉄事業は依然全国一厳しい経営状況にある中、経営健全化団体からの脱却後は一般会計からの経営健全化対策出資金の繰入れが終了するため、累積資金不足の増加が見込まれます。また、市バス事業では、全国的にバス運転士等が不足する中で事業を担う人材を確保する必要があるなど、経営環境は厳しさを増す見通しです。

今後、喫緊の課題である市バスの混雑対策にしっかりと取り組みつつ、安全対策の強化やお客様サービス、利便性の更なる向上、また、新たな増客目標である「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現に向けた取組を推進し、今後見込まれる厳しい経営環境の中でも将来にわたり「市民の足」としての役割を果たしていけるよう取り組んでまいります。

## 2 自動車運送事業

### (1) 営業設備

(30.4.1 現在)

路線	営業路線	317.53km
	停留所数	706箇所
	運転系統数	84系統
車両等	在籍車両数	818両
	うち低床車	818両
	うちノンステップバス	789両
	うちワンステップバス	29両
	うちアイドリングストップバス	809両
	うちハイブリッドバス	59両
事業所等	営業所等	6営業所 1出張所
	車両工場	1工場
	案内所	5案内所

### (2) 旅客数 (1日平均)

	H25	H26	H27	H28	H29
旅客数 (千人)	326	341	353	363	368

## (3) 運賃

(30.4.1 現在)

乗車券の種類		運賃 (円)		
片道乗車券	大人	230		
	小児	120		
バス・バス乗継 (ICカード・トラフィカ 京カードで適用)	大人	370		
	小児	200		
特定割引普通券	大人	120		
	小児	60		
回数券	特定割引	10円券 21枚つづり 200		
	京都市域 共通	普通	230円券 4枚及び 180円券 1枚つづり	1,000
			230円券 14枚及び 180円券 1枚つづり	3,000
		230円券 25枚つづり	5,000	
		80円券～260円券 各々11枚つづり 10枚相当運賃額		
		昼 間	230円券 12枚つづり 120円券 12枚つづり	2,000 1,000
	カード	2,000 (利用額 2,250)		
バス一日券	大人	600		
	小児	300		

## (4) 財政状況

平成30年度予算は、お客様の更なる利便性向上を推進するため、喫緊の課題である市バスの混雑対策や地域主体の「モビリティ・マネジメント」と一体となった路線・ダイヤの拡充、安全運行の推進、魅力あるバス待ち環境の創出など、「市民の足」としての役割をしっかりと果たす予算として編成し、引き続き一般会計の任意補助金に頼らない自立経営を堅持したう

えで、経常損益は、11億円の経常黒字を確保しました。また、利益剰余金については、今後の市バス車両の更新などに備えるため建設改良積立金に積み立てるとともに、地下鉄会計への財政支援に活用するほか、一般会計へ配当することとしています。

### 3 高速鉄道事業

#### (1) 営業設備等

##### ア 烏丸線

(30.4.1 現在)

営業路線キロ	13.7km	列車編成	6両
運転系統数	1系統	運転間隔	朝ラッシュ時 3分30秒～4分
駅数	15駅		夕ラッシュ時 5分
駅間距離	最長		1.6km
	最短	0.7km	表定時分 27分30秒
	平均	1.0km	表定速度 29.9km/h

##### イ 東西線

(30.4.1 現在)

営業路線キロ	17.5km	列車編成	6両
運転系統数	3系統	運転間隔	朝ラッシュ時 4分～6分30秒
駅数	17駅		夕ラッシュ時 6分30秒～8分30秒
駅間距離	最長		1.8km
	最短	0.5km	表定時分 34分30秒
	平均	1.1km	表定速度 30.4km/h

#### (2) 旅客数 (1日平均)

	H25	H26	H27	H28	H29
旅客数 (千人)	348	359	372	379	387

## (3) 運賃

(30.4.1 現在)

乗車券の種類		運賃(円)				
		1区 (3kmまで)	2区 (3kmを超え 7kmまで)	3区 (7kmを超え 11kmまで)	4区 (11kmを超え 15kmまで)	5区 (15kmを超え る区間)
普通券	大人	210	260	290	320	350
	小児	110	130	150	160	180
特定割引普通券	大人	110	130	150	160	180
	小児	60	70	80	80	90
回数券 (11枚つづり)	大人	2,100	2,600	2,900	3,200	3,500
	小児	1,100	1,300	1,500	1,600	1,800
昼間回数券 (12枚つづり)	大人	2,100	2,600	2,900	3,200	3,500
	小児	1,100	1,300	1,500	1,600	1,800
特定割引回数券 (11枚つづり)	大人	1,100	1,300	1,500	1,600	1,800
	小児	600	700	800	800	900
バス・地下鉄連絡普通券 (トライフカード <sup>®</sup> でも適用)	大人	380	430	460	490	520
	小児	200	220	240	250	270
団体券 (25人以上の団体)	普通	10%割引				
	学生	20%割引				
地下鉄一日券	大人	600				
	小児	300				
地下鉄・バス一日(二日)券	大人	(一日券)	900	(二日券)	1,700	
	小児	(一日券)	450	(二日券)	850	

注1 バス・地下鉄連絡普通券は、バス均一区間の場合の発売額を示す。

2 地下鉄・バス一日券及び二日券は、市バス、地下鉄の全路線及び京都バス、京阪バスの一部区間が利用可能な共通乗車券である。

3 下記の表の本市烏丸線各駅と近畿日本鉄道京都線各駅相互間を普通券又は IC カード（特別割引用 IC カードを除く。）で乗車する場合には、本市運賃から大人 10 円，小児 5 円又は 10 円を割引く。

割引対象区間			大人割引額（小児）	
本市烏丸線	接続駅	近鉄京都線		
九条～くいな橋	竹田	伏見～桃山御陵前	10	(5)
		向島	10	(10)
京都		伏見～向島	10	(10)

4 下記の表の本市東西線各駅と京阪電気鉄道京津線各駅相互間を普通券又は IC カード（特別割引用 IC カードを除く）で乗車する場合には、本市運賃から大人 60 円または 50 円，小児 25 円または 20 円を割引く。

割引対象区間			大人割引額（小児）	
本市東西線	接続駅	京阪京津線		
東山・蹴上	御陵	京阪山科～大谷	60	(25)
		上栄町・浜大津	50	(20)
三条京阪		京阪山科～浜大津	50	(20)

#### (4) 財政状況

安全対策，お客様サービスの向上に努めながら，増収増客の取組を着実に推進したことにより，平成 30 年度予算では経営健全化団体から経営健全化計画より 1 年前倒しでの脱却を前提とした予算として編成しています。

また，「地下鉄・市バスお客様 1 日 80 万人」に向けた取組や，駅ナカビジネスの積極的取組等により開業年度以来となる経常損益の黒字予算 7 億円を計上し，現金収支（償却前損益）は，102 億円の黒字を見込んでいます。

しかしながら企業債等残高見込みは 3,553 億円に上り，経営健全化団体脱却後は累積資金不足が 309 億円からさらに増加するとともに，今後も車両新造や設備更新に多額の費用を要するなど依然厳しい経営状況です。